

障害者雇用推進シンポジウム「事例から考える圏域の障害者雇用の仕組みづくり」

社会福祉法人 明光会

〒421-1211 静岡県静岡市葵区慈悲尾180番地

助成事業の概要

静岡圏域で障害者雇用を進めること、「良い人財」を採用するためのしくみを作ることを目的に静岡市障害者自立支援協議会就労支援部会と共催で障害者雇用推進シンポジウム「就フェス」を行った。

2部制で行い、第1部では昨年の「就フェス」に来場されたことがきっかけで障害者の採用を始めた市内の社会福祉法人の採用担当者が『「就フェス」を採用のきっかけに』と題して講演を行った。続いて就労支援部会員によるディスカッションを行い障害者雇用を増やすために「就フェス」をどのように活かすかについて意見交換をした。第2部では市内の就労移行支援事業所と採用意欲のある企業担当者が交流できるように就労移行支援事業所がブースを出しそこを企業担当者が訪問する形式で行った。当日は12社22名の担当者が10か所の移行支援事業所ブースを見て回った。各ブースでは事業所が行っている訓練についての紹介や就職準備ができて利用している利用者（訓練生）についての情報提供を行った。

事業の成果

昨年静岡市で初めて開催した「就フェス」がきっかけとなり障害者雇用を始めた事業所（会社）があったのでこの事業所の担当者に講演をお願いした。また静岡圏域では企業と障害者就労支援者とのつながりが薄く企業就労へ繋ぐしくみができていないことが課題となっていることを就労支援部

会員によるディスカッションで明らかにしようとした。令和元年8月8日（木）午後1時から静岡市役所17階の会議室を会場に行った。来場者は43名でそのうち企業関係者は12社22名だった。残念だったのは企業関係者が昨年より7名減少したことだが反面4社の新聞社やテレビ局が取材に訪れてくれた。直近に行われた参議院議員選挙でれいわ所属の障害者が当選したことで「障害者が働くこと」について世間の関心が高まったことが関係しているのではないかと思われる。当日の様子は8月11日付けの静岡新聞朝刊に掲載された。来場された企業にアンケートを行ったところ「就労支援機関と有意義な情報交換ができた。就労が決まればそれでよし、ではなくその後の定着が重要であるということが理解できた。個々の機関と一堂に会えたためとても有難かった」との前向きな感想・意見を多くいただいた。講演では実際の採用事例を具体的に紹介していただいたことで今後の採用についてだけでなくどうすれば定着できるのかわかったという意見や就労移行支援事業所でどういうツールを使って訓練しているのか実際に話を聞いてよく理解できた、採用に当たってとても参考になるとの感想も寄せられた。会場には企業担当者同士の情報交換の輪もできていたし就労移行支援事業所のブースでは就労準備のできた利用者情報の提供や訓練の様子を動画で紹介したりといろいろ工夫を凝らした説明が行われていて事業所の就労支援力の向上に役立っていたようだ。障害者支援の場面ではよく「顔の見える関係が大事」と言われる。会場ではこの「顔の見える関係」があちこちで作られていたようである。今後この

関係が障害者雇用に必ず役立ってくる。このことがこの事業の最も大きな成果ではないだろうか。

■ 成果の広報・公表

当日の様子は8月11日付け静岡新聞朝刊（県中部版）に掲載され広く紹介された。また後日（8月30日）静岡あさひテレビの障害者の自立生活に関する特集番組内でブースでの様子が映像として使用された。

参議院議員選挙で2人の障害者が当選したことと相まってとても関心が高まった。

今回の事業は静岡市障害者自立支援協議会就労支援部会との共催とした。このため実施についての報告を令和2年1月17日に開催された第2回就労支援部会にて行うとともに1月31日開催された第2回静岡市障害者自立支援協議会及び令和2年7月16日開催の令和2年度第1回静岡市障害者自立支援協議会においても同様の報告を行い広く市民に事業内容を知っていただく機会とした。今後も法人ホームページでの紹介や企業への障害者雇用についての説明会等で事業の成果について使っていきたいと思っている。

■ 今後の展開

静岡圏域における障害者の一般企業採用を①特別支援学校等の新卒者②就労移行支援事業所利用者の2つのチャンネルに絞り込むことによって採用される障害者の就労能力が正しく把握されその結果、高い定着率が実現できると考えている。高い定着率は圏域の障害者雇用率の向上につながり雇用される障害者の増加になる。このことは企業にとっては効率よく採用活動が展開できるので法定雇用率の達成はもとより採用経費節減にもなる。障害者にとっては理解ある職場に就職できるので途中で辞めることもなくなりキャリア形成や賃金アップに繋がる。「就フェ

ス」は企業に就労移行支援事業所からの採用が有利であることのアピールの場になってくる。すでに今回参加した企業担当者がブース出展した就労移行支援事業所を訪問することもあったようだ。

もう1つの新たな動きは就労移行支援事業所同士の（横の）繋がりが生まれる機運が出てきたことだ。

良い意味での競い合いや情報の交換、支援技術の向上に向けての研修、合同就職面接会に就労移行支援事業所ブースを共同で設けることをきっかけに「就労移行支援事業所連絡協議会」の立ち上げを静岡市障害者自立支援協議会就労支援部会と共同して行うことになった。